

2021年度守山ほたるパーク&ウォーク は中止となりました

今年の飛翔状況は10数年ぶりに最高となりました。期間中5月～6月まで延べ40数名のボランティアが飛翔調査に参加くださいました。皆さんありがとうございました。



夕灯り水辺の音楽会を開催します

by あつまれ! みんなの川づくり

8月28日(土) 18:30～19:30

雨天延期:9月4日(土) 18:30～19:30

夫婦ボサノバユニット『cae+vono(カエボノ)』さんに演奏をしていただきます。関西を中心に各地で演奏。caeの明るく澄んだボーカルとvonoのやさしいタッチのギターが魅力です。夕暮れ時にランプの灯りと静かな音楽で夏の終わりの水辺を楽しみましょう。



データ整理ボランティア募集

水質調査などのデータ整理をお願いいたします。
(Excelの使える方を募集しています)

軽トラ隊募集

イベント等で用具の運搬など軽トラでお手伝いいただける方を募集しています。
(ガソリン代程度のお支払いをいたします)

これからの活動予定

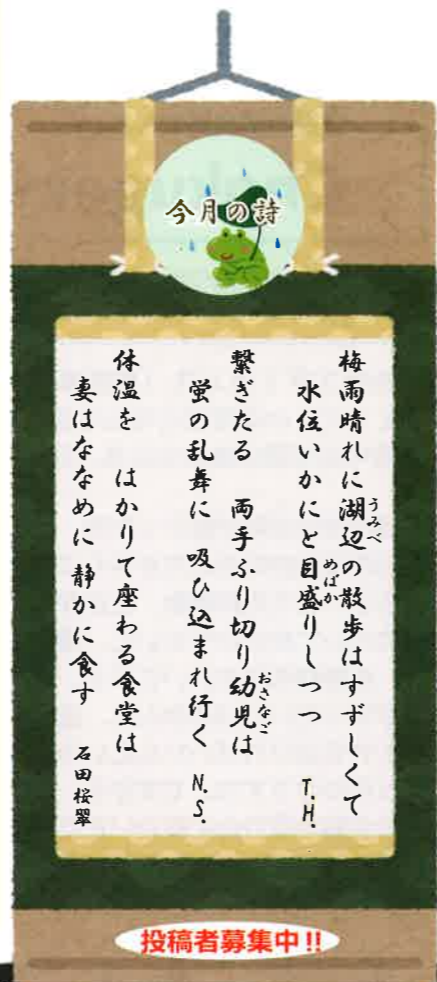
◎ 生き物観察教室・自由研究教室	開 7月30日 8月2,3日(金、月、火) 9:00～12:00	場 ほたるの森資料館
◎ 自由研究相談室(ほたるの森資料館)	開 8月1日(日) 午前・午後	場 ほたるの森資料館
◎ 第2回ホタル学習会(ほたるの森資料館)	開 8月7日(土) 13:30～15:00	場 ほたるの森資料館
◎ 水辺の楽校(夏編)	開 8月28日(土) 9:00～12:00 雨天中止	場 図書館横やすらぎ広場
◎ 夕灯り水辺の音楽会	開 8月28日(土) 18:30～19:30 雨天時予備日:9月4日(土)	場 図書館横やすらぎ広場
◎ みんなの河川クリーン作戦	開 9月25日(土) 予備日9月26日(日)	場 市内河川
◎ 水辺の楽校(秋編)	開 未定	場 芦刈園
◎ 川づくりフォーラム	開 2022年1月30日(日)	場 未定
◎ 赤野井湾・小津袋クリーン大作戦	開 2022年3月5日(土)	場 玉津小津漁業協同組合事務所前
◎ 水辺の楽校(春編)	開 2022年3月12日(土)	場 目田川河川公園

◎ あつまれ! みんなの川づくり 毎月第4日曜日 9:00～11:00
◎ 目田川モデル河川づくり 毎月第3土曜日 9:00～12:00

開 開催日時 集 集合場所 場 活動場所

しじみのひとりごと

農業用水としての小川は、大切に管理されていた。田植えの前に川堀をして川の流れを良くしていた。田植えから土用の間は、小川に満水の水を張っていた。川を餌とする虫が乱舞し来年の世代維持の産卵をしており、琵琶湖から遡上してきた稚魚の多くは、水を張った田圃や小川で豊富な栄養を得て大きく育っていた。土用近くなったころ、下流から順次、井堰を抜いて水を汲み出して魚を捕ることが行われていた。幾つかの区切りを作って、権利を入札していた。今日に見られる食料品の全国的な流通が見られない頃、唯一のタンパク源補給の事態であった。 T.H.



投稿者募集中!!

イベント・ボランティアの参加希望は豊穡の郷事務所にお電話ください。お申込みお待ちしております! 豊穡の郷事務所 077-583-8686

豊穡の郷だより Vol.93

2021年7月25日発行 発行部数 1,800部

発行 認定NPO法人びわこ豊穡の郷 E-mail houjiyounosato@lake-biwa.net
理事長 金崎いよ子 URL http://www.lake-biwa.net/akanoi/
住所 守山市勝部五丁目10-25
TEL 077-583-8686 (有線 583-8686)
FAX 077-558-5007

1面 水辺百選講座・助成金採択など
2面 通常総会、あつまれ! みんなの川づくり、田植えをしました
3面 インタビュー、オオバナミスキンバイ除去作業、ほたると光について
4面 これからの活動予定、今月の詩、しじみのひとりごとなど



第12回 水辺百選講座

野洲川南流・北流を巡りました

皆さんは、琵琶湖にそそぐ野洲川が、かつて南流と北流の2つに分かれていたのをご存じでしょうか? 今回の水辺百選講座の活動では、この旧野洲川と現在の野洲川の視察を行いました。旧野洲川は枝分かれしていたために、水害の絶えない暴れ川でした。一方で、伏流水など人々に恵みをもたらしてくれていました。現在は新しくつくられ

た野洲川のおかげで氾濫の可能性は減少しました。しかし、同時に野洲川がもたらしていた恵みも減少したことが分かりました。現在各地で水害が多発しており、防災に対する関心が高まっておりますが、このような命を守るための土地改変と保全の両立の難しさを改めて感じるよい機会となりました。

湖岸緑地 中主吉川公園

祝

『びわ湖・赤野井湾探険会－五感を使った環境学習』

2021年度

公益財団法人 高原環境財団助成金申請が採択されました!

祝

守山市より感謝状が贈られます

8月1日(日)市制施行50周年記念式典で、長年にわたる功績に対して、感謝状が贈呈されます。びわこ豊穡の郷を支えてくださった皆さま、本当にありがとうございました。これからも引き続きよろしくお願いいたします。

通常総会

6月13日(日)に第18回通常総会を開催し、当日提案案件の「2020年度事業報告並びに決算報告」「2021年度事業計画(案)並びに活動報告(案)」は、可決承認されました。今年度はコロナ禍での総会のため、会員の皆さまには書面決議またはリモートでの参加をお願いし、会場となった当法人の事務所には、議長、議事録署名人など最小人数で集まりました。コロナ騒動が始まって1年が経ち、このような形での総会に世の中の変化を感じました。皆さまご協力をありがとうございました。



あつまれ！みんなの川づくり

2021年度 未来ファンドおうち助成事業の助成を受け、4月から毎月第4日曜日、9:00～11:00に作業を行っています。5月の作業では、バープエを作り川の流れを変えました。6月に、行ってみると狙い通りの砂利の川底ができていました。参加者は伸和株式会社さんからインドネシア人研修生を含む8名のご参加があり、始めたばかりのインスタグラムでのお問合せで守山市内の小2と3才の親子にもご参加いただけました。また、新しい会員さんが作業の様子の撮影と編集を行ってくださっています。昨年のこの時期には水の流れが見えず残念でしたが、今年は川遊びをしている子どもの姿を目にするようになりました。

また、大変な作業ですが、毎回参加してくださる方もおられて、とても嬉しく思っています。

色々な形でご参加いただけますので、お気軽にお越しください。



↑バープエ

田植えをしました

6月12日(土)クラブアトラクションという子育て支援や環境教育などの活動をされている団体さんの田植えイベントが当法人の管理する田んぼで行われました。この団体では企画、打合せ、当日の子どもたちの引率、指導まで、イベントの全てを大学生が行っています。当法人からは植え方指導の小林靖雄さんと一緒に、インターン生も田植

えに参加しました。元気な子どもたちとそれを立派に指導している大学生に感心しました。イベント開催のやり方では豊穣とは違う点が多々あり、学ぶことがたくさんありました。今後草刈り、稲刈りにも来られます。田んぼの看板も作り、秋にはかかしも登場します。見に来てくださいね。



クラブアトラクションさんと

豊穣の郷会員さんに

Chokugeki いんたびゅう

今回答えてくれた人

びわこ豊穣の郷 副理事長
沢井進一さん

File No.28
会員歴：20年



令和3年7月1日、「琵琶湖の日」は40周年を迎えました。当時から、県職員として、小津学区の守山住民として、琵琶湖の水環境改善に関わって来られた前守山市自治連合会会長、沢井進一副理事長にお話をうかがいました。

琵琶湖の赤潮が起こった時、そのあとの地域のお母さん方が中心になって進めていった石鹼運動、住民が自分のものとしてかかわっていく、最初ですね。赤野井湾をきれいにする、役所だけがやっていると、住民を入れてやらなければいかにという思いがあったわけですね。ですから、守山市内の全部の自治会に協力いただいて、後は、団体に入っていた所は、

入っていただくということで赤野井湾流域協議会ができたのです。一緒にやろう、地域全員で浄化をできる体制を創っていきこうと、1つの組織が出来上がっていった。自らが、手を貸す。人を説得する、本気度が上がってきたのです。結果、今は、町中、どこにも川が通っている。水はよくなっている。下水も完備した。ほたるも飛ぶようになった。自治会の組織率は9割以上で

すが、何処も世話役は高齢化し、このコロナ禍のこともあり、清掃活動、1つにしても、できるけど、全体が気持ち1つにして、できるかというところまで来ていない。絆と言いますか、それがつながって来ない。これからどう繋いでいくか、これが課題ですね。そんな中、地域のこと、子どもたちに知ってもらおうと思って、出前授業始めたんです。楽しいですよ！

オオバナミズキンバイ 除去作業

6月27日(日)滋賀県水産試験場、玉津小津漁業協同組合、IVUSAのオオバナミズキンバイ除去作業に参加しました。赤野井湾北端のヨシ帯の中で繁茂している除去活動です。除去したオオバナミズキンバイは赤野井湾港のコンクリートの上で乾燥させますが、どんどん漁船で運び込まれる量の多さにびっくりしました。この辺りは随分繁茂が減って来たと思えていただけに、この水草の根絶の難しさを強く感じました。



ほたると光について

ホタルにまつわるお話

1. ホタルと光

人類は長い間飢えと戦ってきたから、昆虫は普通に食べてきた。でもホタルは食べてこなかったと思われる。自衛隊のサバイバルレシピにも「ホタルには手を出さないこと」との記述があるようだ。水中で育つ幼虫も光るから目立つことこの上ないし、ゆっくりしか移動できないから餌食になりやすく生

き延びるのは難しい。毒キノコと同様、「私は危険ですよ、まずいですよ」といえる苦い経験を敵に与えてきた歴史があるに違いない。加えて逆襲の分泌液を吐き出す機能も持っているようだ。幼虫が餌のカワニナを捕食する際用いる筋肉麻痺物質である。このような目立つことの不便さがあったとしても、

繁殖相手が少なくても見つけやすいというメリットこそが、1億年前からホタルが続いてきた戦略を正当化するのだろう。それでは人はなぜホタルを愛でるのだろうか？夜の闇を克服した人は、すり込まれた長い洞穴生活への郷愁と共にホタルも捨て去ろうとしているのだろうか？

